

# 平成26年7月21日～7月27日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について （お知らせ）（平成26年度第7報）

## 1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月12日(月)から情報提供を開始したところです。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行うことといたしました。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

## 2. 先週（7月21日～7月27日）の全国の暑さ指数の観測状況について

### 暑さ指数31℃以上（危険）の時間数（168時間中）

1. 久米島（沖縄県）	52時間
2. 南大東島（沖縄県）	38時間
3. 阿久根（鹿児島県）	31時間
4. 宮崎（宮崎県）	28時間
5. 種子島（鹿児島県）	27時間
6. 油津（宮崎県）、牛深（熊本県）	26時間
7. 石垣島（沖縄県）	24時間
8. 福江（長崎県）	21時間

### <参考>全国9都市の観測地点

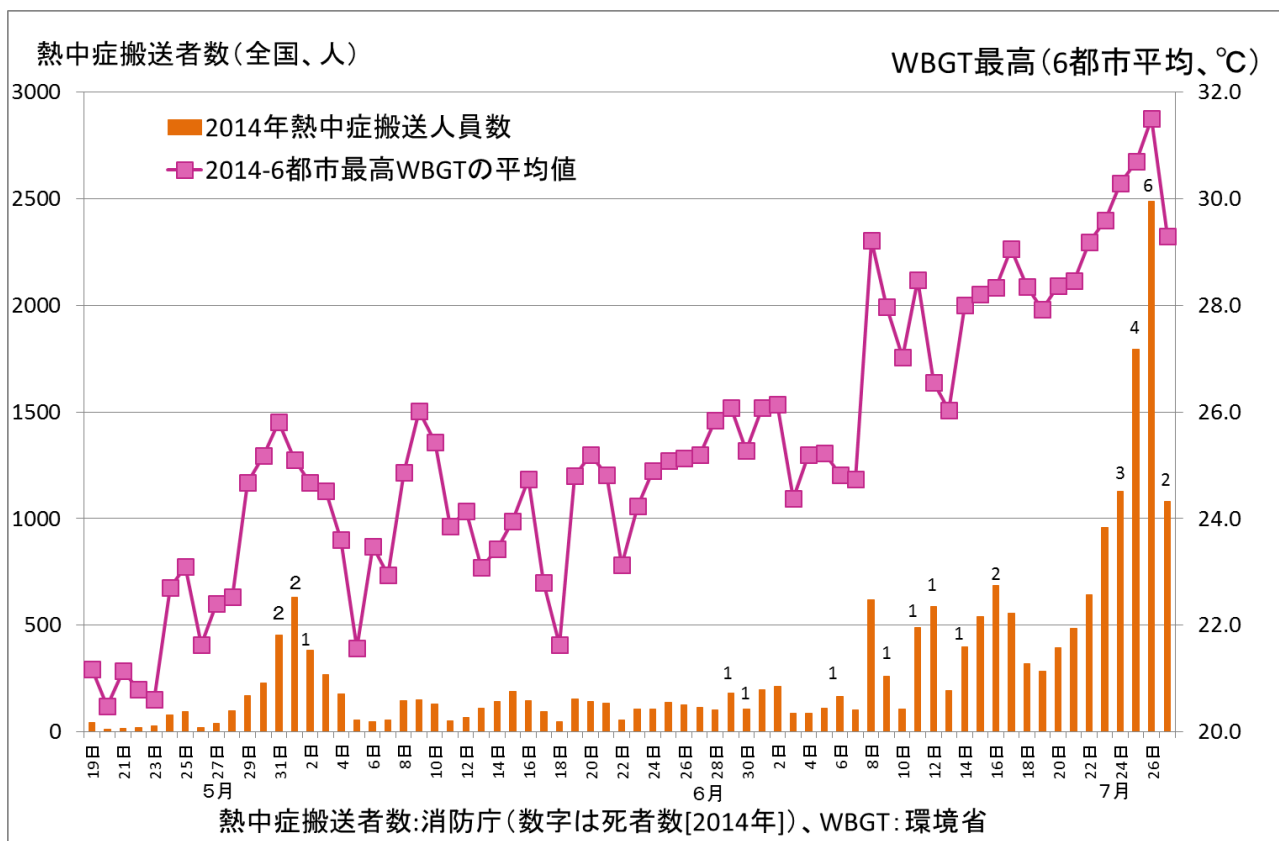
札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	1時間
東京（東京都）	2時間
名古屋（愛知県）	7時間
大阪（大阪府）	6時間
広島（広島県）	8時間
福岡（福岡県）	9時間
鹿児島（鹿児島県）	11時間

(注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

(注2) 暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、久米島の52時間が最多で、153地点のうち97地点で暑さ指数31℃以上の時間がありました。なお、暑さ指数31℃以上とは、(公財)日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

### 3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数（全国）との関係

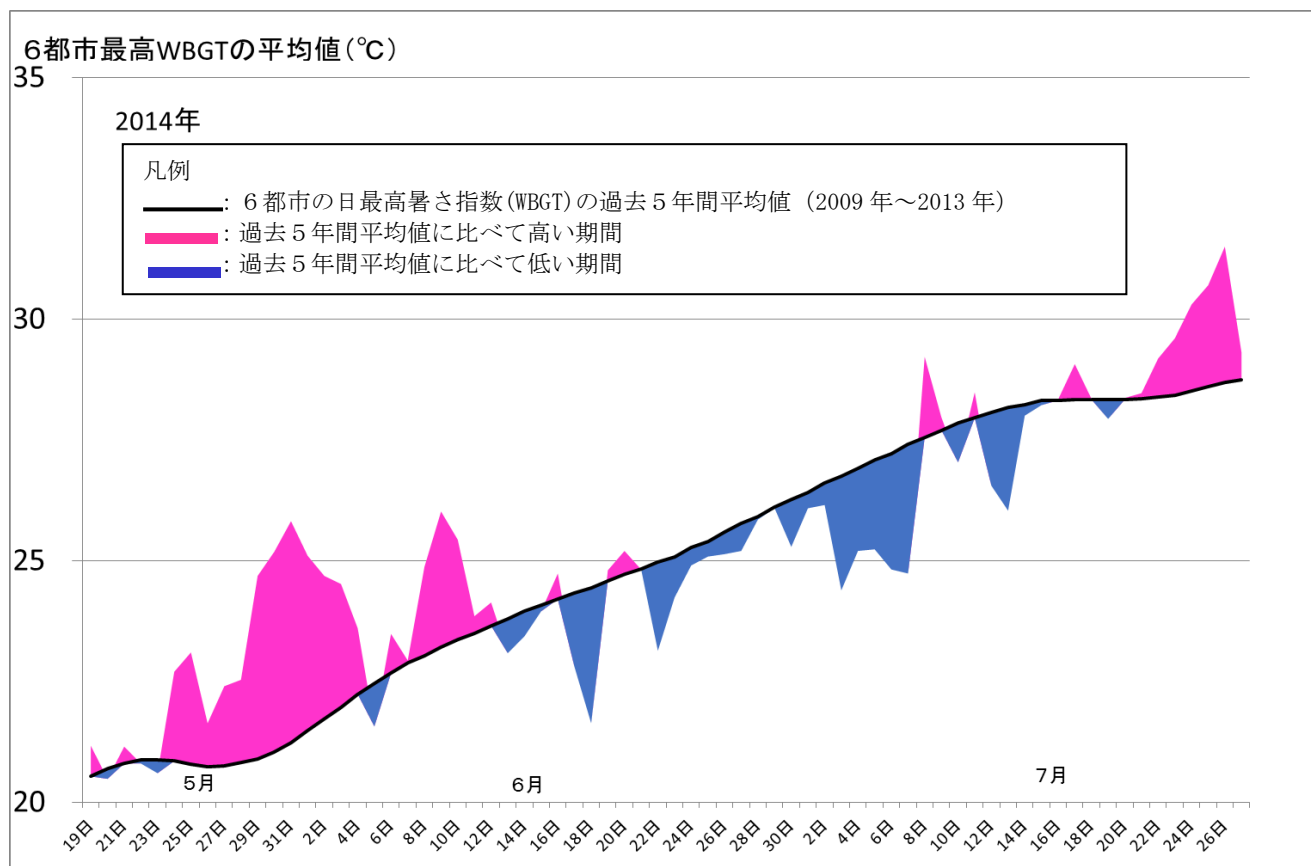
6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月21日～27日までの期間は29～32°Cでした。熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると485～2,489名(最多は26日)で、24日～27日にかけては1日あたり1,000名を越え、極めて高い水準となりました。梅雨明けとともに猛烈な暑さとなった地方もあり、前の週に比べ約2.7倍の搬送者数となっています。
  - 東日本、西日本、南西諸島および北日本の一部では、7月21日～27日までの期間、昼間の日最高暑さ指数(WBGT)は連日28°Cを上回り、熱中症に対して「**嚴重な注意**」が必要な状態となっています。また、週末を中心に熱中症危険度の「**運動は原則禁止**」を示すWBGT31°Cを多くの地点で上回っており、熱中症危険度の「**嚴重注意**」を示すWBGT28°Cを超えた地点は75～124地点(全153地点中)で、ほぼ全国的に熱中症に**嚴重な注意**が必要です。
  - 気象庁発表(7月31日11時時点)の週間天気予報では、最高気温・最低気温ともに、平年並か平年より高いですが、西日本で最高気温が低い所がある見込みです。
  - 梅雨明け後の猛烈な暑さはやや収まっていますが、引き続き熱中症に**嚴重な注意**が必要な暑さが続きます。こまめな水分補給や積極的に休息をとるなど体調管理に気をつけ、最新の気象情報を利用し、熱中症に**注意**してください。
- (注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。  
6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

#### 4. 2014年の6都市の暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較<sup>(注1)</sup>

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月21日から平均値<sup>(注2)</sup>を上回る日が続き、7月26日は平均値を2.8°C上回る暑さとなりました。

今週に入り、暑さ指数(WBGT)は平均値とほぼ同程度となっていますが、暑さが続くと体調管理が難しくなります。最新の気象情報を利用して、十分な暑さ対策を心がけてください。

(注1) この項(4項)は、平均を大きく上回る高温が記録されたときに追加してお知らせします。

(注2) 平均値は、平成21年から平成25年の6都市平均日最高暑さ指数(WBGT)の5年平均値です。